

自治体の持つ学校健診情報の可視化と その利用に向けての基盤構築

京都大学 学際融合教育研究推進センター 政策のための科学ユニット



プロジェクト概要

学校健診情報のDB化と個人の健康や政策への活用

- ✓自治体の持つ学校健診情報などの可視化を行う
- ✓学校健診情報などの健康情報と医療情報を接続させる
→人生の健康史ともいえるライフコースデータを完成させる
- ✓本研究事業と市民の間の相互理解のための
ELSI(倫理的、法的、社会的問題)のあり方を示す

目的・目標

- ✓生活習慣病の発症の可能性と予防法を学校や家庭に伝える
- ✓健康情報の解析により、各自治体の特色に応じた政策、学術や産業への利活用を提案する
- ✓自治体や国民が納得する社会的な正当性をもった形で健康・医療情報を有効に利活用する

可視化: 地域の 健康増進に 活用

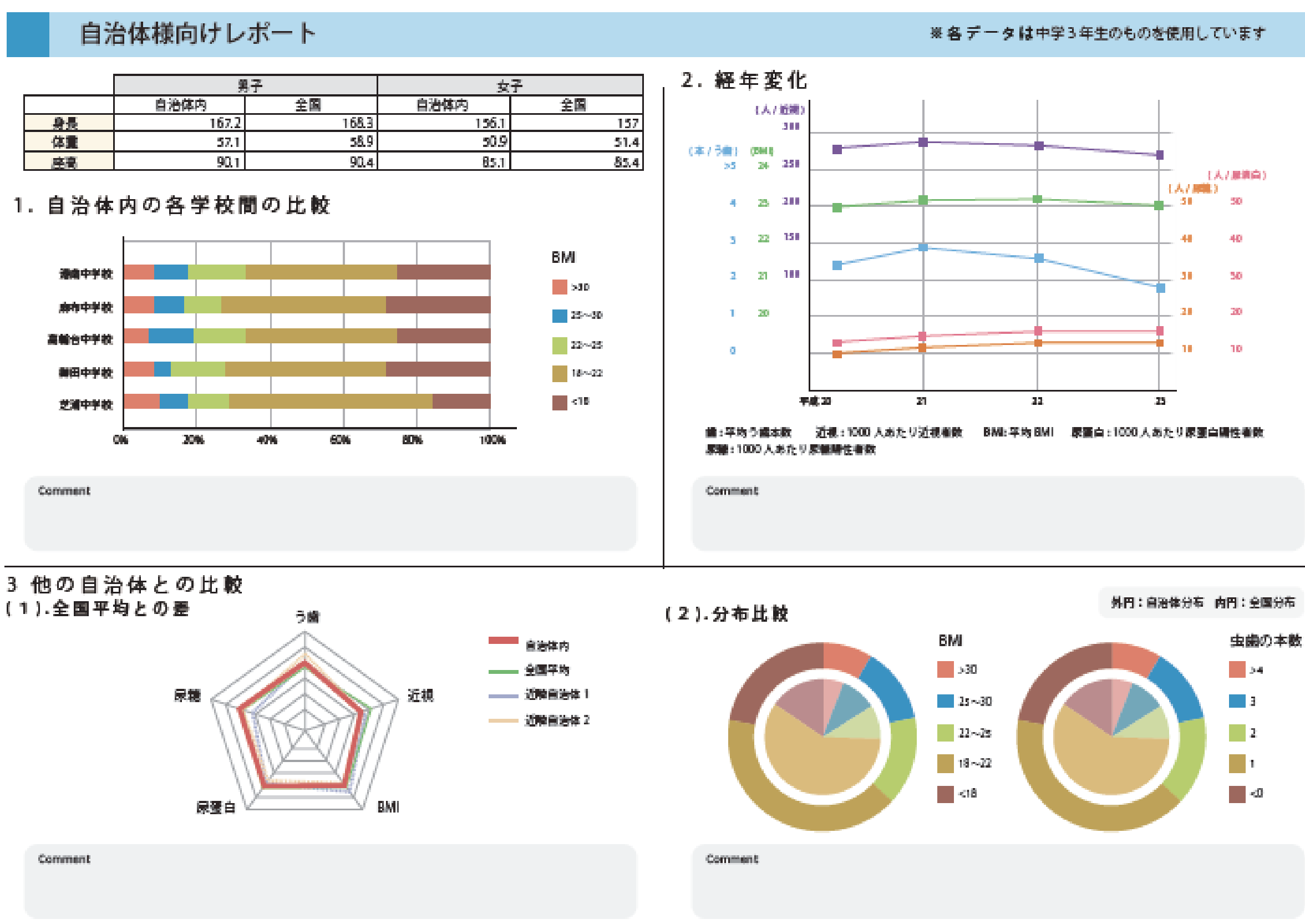


図1. 学校健診情報の可視化

健康情報を結ぶ ライフコースデータ 学術的価値: 予防医療 医療の評価

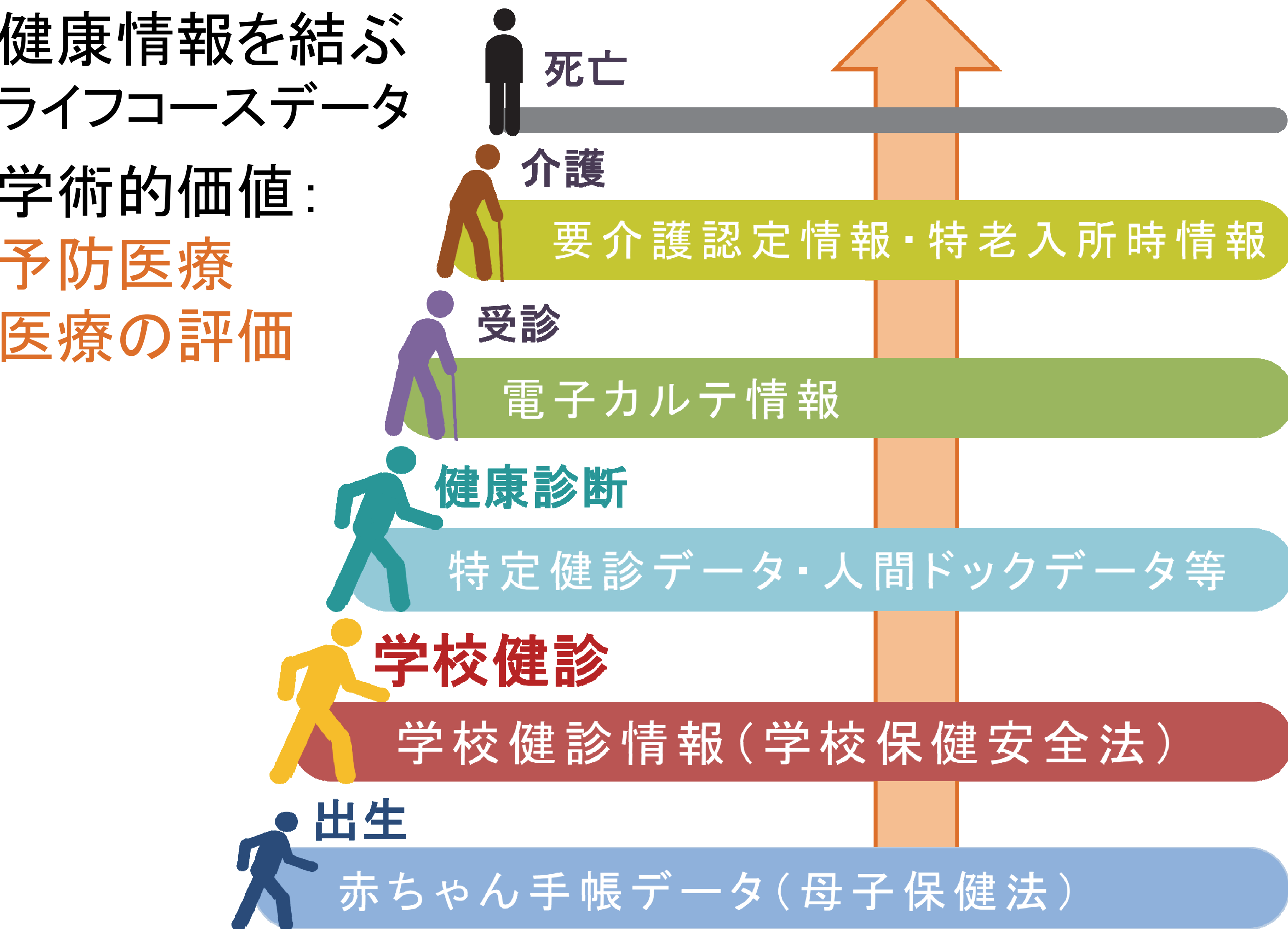


図2. ライフコースデータの構築

自治体の保護者へのアンケート調査
→ 研究事業と市民の間の相互理解

具体的な取り組み・進捗

現在、33都道府県76自治体と調整
平成27年度から既に11自治体
平成28年度からは50自治体と取組開始

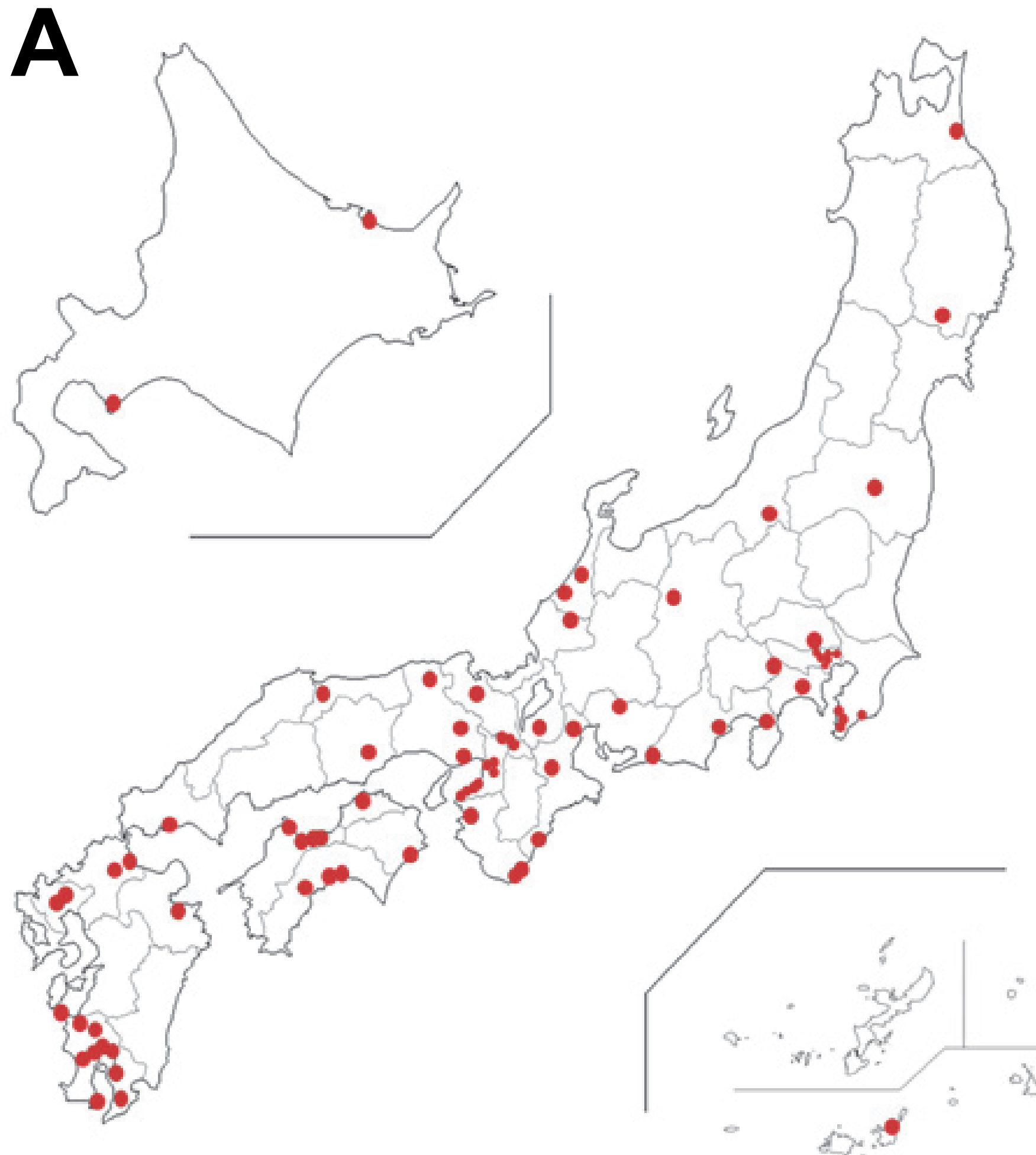


図3A. 全国の協力自治体

SciREX
サイレックス事業

自治体の
新たな取組:
文部科学省から
も支援



図3B. 東京都23区の特別区長会における説明会
(2016年1月15日)

文部科学省、総務省、財務省、
内閣府、経済産業省、全国教育再生首長会議から
のご紹介やご支援をいただいています

2016年度: 10自治体の保護者を対象とした調査
実施の調整・調査票開発を既に行った

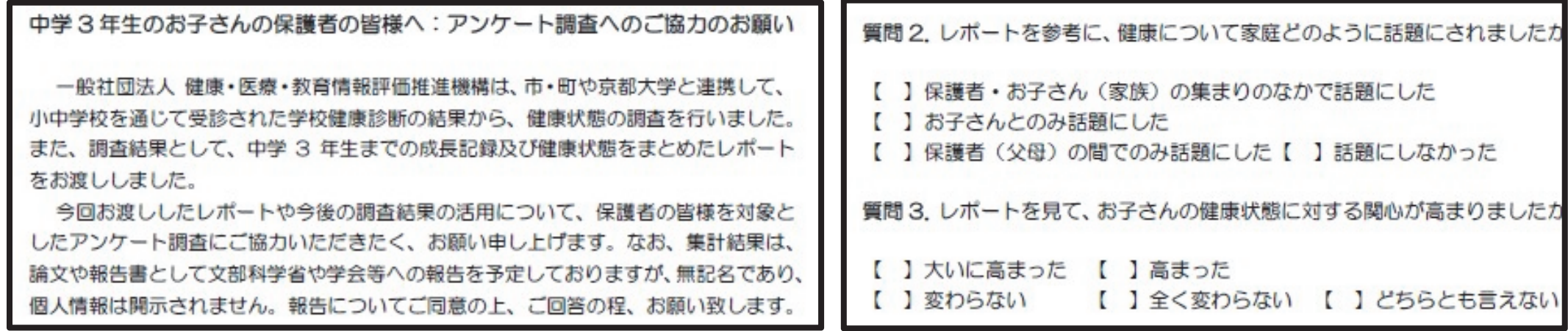


図4. 調査票
(一部抜粋)

市民・報道における評価

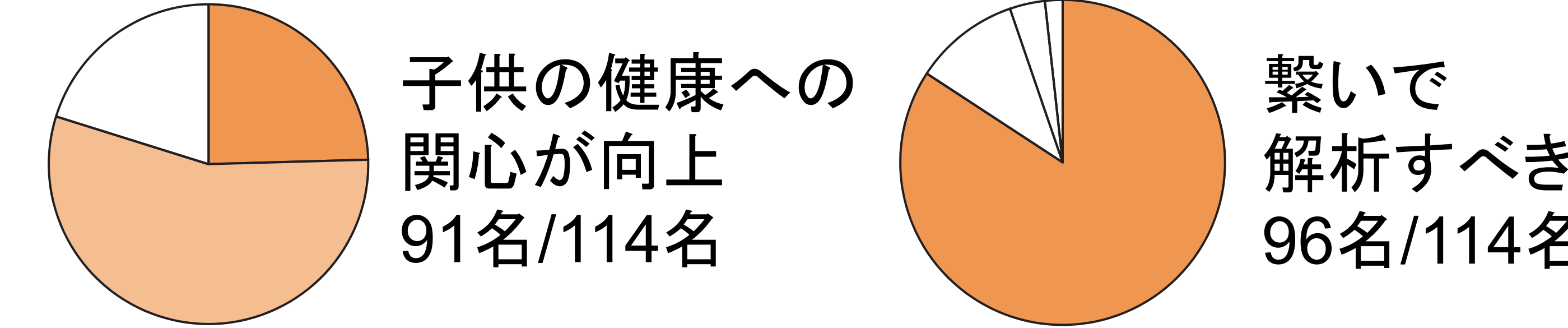


図4. 2015年度アンケートの結果(一部抜粋)

- ✓健康レポート還元によって、
80%の保護者の子供の健康への関心が向上
- ✓86%の保護者、各種健診結果は繋いで解析すべき



学校健診の
データベース構築と
その重要性
記事掲載:
2015年11月27日
日経産業新聞
2016年11月21日
読売新聞

伊勢志摩サミット(2016年6月)

外務省において、今後の重要案件として注目
→事前に事業説明を実施